（様式 3）

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代 表 者 氏 名	大平 英樹	所 属	名古屋大学大学院情報学研究科 心理・認知科学専攻
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成 果 概 要	1）参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 会員 50 名（うち認定心理士 1 名） 非会員 60 名（うち認定心理士 名） 2）集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） 【共同研究企画】 ①目的 本企画は，研究会を共同研究提案の場として活用することを目的とした新しい取り組みである。検体収集や生化学的測定の分担，データセットの共有をすることで研究会活動および国内における精神神経内分泌免疫学研究の活性化を図る。 ②成果 現在1件の共同研究が進行中である。さらに研究会ホームページにも募集・成果などを逐次掲載し，研究会会員や隣接領域の研究者に向けた情報発信に努めた。 ③将来構想 昨年度からの新しい企画であるため，まだ研究数が少ないのが現状である。今後も引き続き研究集会やホームページ等で共同研究者を募り，ワーキンググループでの活動を行っていく。 【研究集会】 ①目的 精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有，研究者間の交流を目的とし，共同研究の促進を図る。また，若手研究者に研究発表の機会を与えることで研究者の育成に努める。 ②成果（添付資料参照） 日本心理学会シンポジウム 日本心理学会にて，令和 2 年 月 26 日に母子健康と精神神経内分泌免疫（PNEI）関するシンポジウムを行った。母と子の関係が胎児期だけでなく出生後の子どもの発達あるいは母親の健康状態などに大きな影響を与えることが知られている。本シンポジウムでは 3 名の先生方から話題提供をいただき，母子関係における心理社会的要因と生物医学的要因との相互作用について議論を行った。 永岑光恵先生（東京工業大学） 「妊娠期の母親のストレスが胎児の成長に及ぼす影響」 福田早苗先生（関西福祉科学大学） 「乳幼児におけるコルチゾール反応に関連する要因に関する研究」 崔 多美先生（浜松医科大学） 「オキシトン受容体遺伝子多型と母の産後うつと交互作用が子どもの問題行動に及ぼす影響」 ③将来計画 今後は第 26 回研究集会および日本心理学会でのシンポジウムを企画することで，さらなる情報，研究手法・技術の共有化，研究者間の連携を強めることを目指す。		

（様式5）

2021年　3月　22日

日本心理学会研究会　　2020　年度会計報告書

研究会名称　公益社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会

研究会番号　研20017

助成金額　¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
		¥0
2021年3月24日	返金（日本心理学会）	¥30,000
	支出合計	¥30,000